幼馴染はいつも明るく、元気いっぱい・・・・
そんな彼女は寝ている間に触手型寄生虫に寄生されてしまう・・・・
朝起きると何も覚えていない彼女・・身体に違和感もない・・・・

深く考えなかった彼女は、いつも通り学校に行く・・・・・

そして昼・・・学校のいつもの場所・・・

おーっす・・・って
ヘッドホンしてて
気付いてない・・・
シャカ
シャカ

○○のばーかw
ばーかばーかw
ww
あははw
聞こえてないのおもしろw
www
シャカ
シャカ

しかしその時、彼女の顔に血管が浮き上がり・・自我が薄れていく・・・
え・・・
ぼーっ・・・・
あれ・・・・
ズ・・・
だらん・・・・
シャカ
シャカ

目の色が変わり、様子がおかしくなる・・・・
ふふっ・・・
ニチャア・・・
ズズ・・・
プル
プル
プル
プル
プル
シャカ
シャカ

くひひっ・・・
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
シャカ
シャカ

彼女の息が荒くなると、突然運動服を脱ぎだす・・・・
ふーっ♥ふーっ・・♥
フーッ♥
フーッ♥
フーッ♥
ズズ・・・・
シャカ
シャカ

運動服を脱いだ彼女は、満足気に笑う・・・・・
くひっ・・・
くひひっ・・・
くひひひっ・・・
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ニヤ
ニヤ
ペロッ♥
シャカ
シャカ

視線を下に移し、どこかを見ながら意味深な言葉を発する・・・・・・
くひっ・・・
まだ・・・・
もう少し・・・・
くひひひっ・・・・
ギロッ・・・
フーフー
フーフー
シャカ
シャカ

すると、浮き出た血管が薄くなり、彼女の自我が少しずつ戻ってくる・・・・・・
・・・・・・
スッ・・・・
シャカ
シャカ

あれ・・・・？
私・・今・・・おかしくなって・・・
ズズ・・・
シャカ
シャカ

ちょっ!?
なんで運動服脱げてんの・・・!?
シャカ
シャカ

彼女が運動服を上げると、ちょうど男は振り返り、彼女の存在に気付く・・・
あっぶな・・・
なんだ居たのか
って何してんだ？
あっ・・どうせこっそり
悪戯しようとしてたんだろ？

あせ
あせっ
え？あー・・・
まぁそんな感じ・・
あはは・・・
？
なんだよ？
歯切れが悪いな

すると彼女のお腹が大きく鳴る・・・
!?
!?
ぐぅ〜
きゅるる〜っ

実は朝食後からずっとお腹が鳴っていて、原因が分からず困っていた・・・・
あ、あれー・・？お昼食べたばっかりなんだけどなー・・
ぐぅ～…
ぎゅるるる～っ…
ほんとに食べたのか？パンでいいなら分けてやろうか？

騒ぎっぱなしの腹の虫に羞恥心を感じたのか、そそくさとその場を離れようとする・・・
いや、大丈夫・・・あはは・・・
もう行くね・・・ばいばーい・・
ぐ～ぎゅるる・・・
ぐぅ～・・・ぎゅるるる～っ・・・
?
お、おう・・・

この時・・下腹部のあたりがわずかに膨らんでいた・・・
ポコッ・・・

そこから微かに聞こえる・・・命の鼓動・・・・

トクン..

トクン...

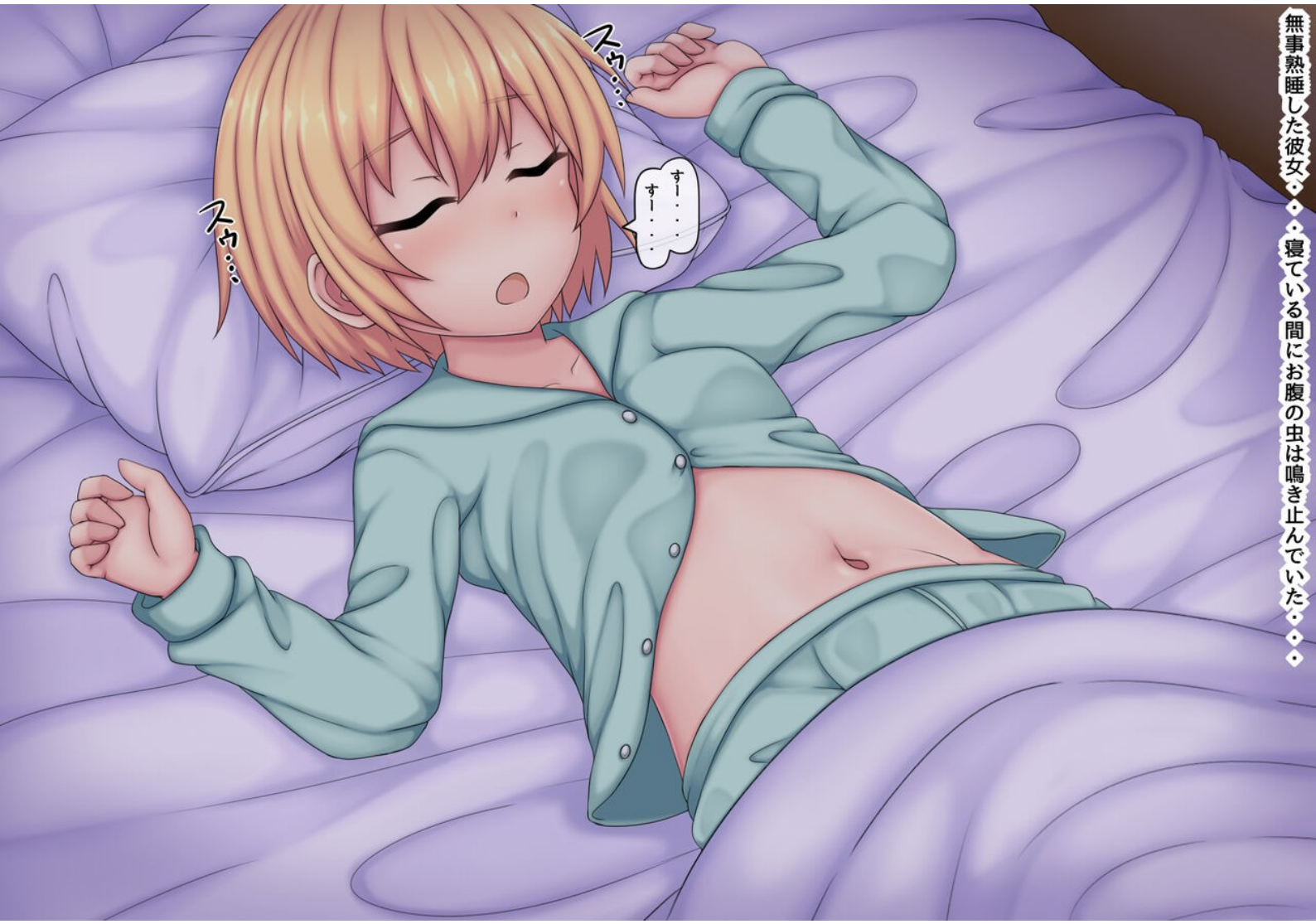
夜◆◆◆彼女の部屋◆◆◆◆◆

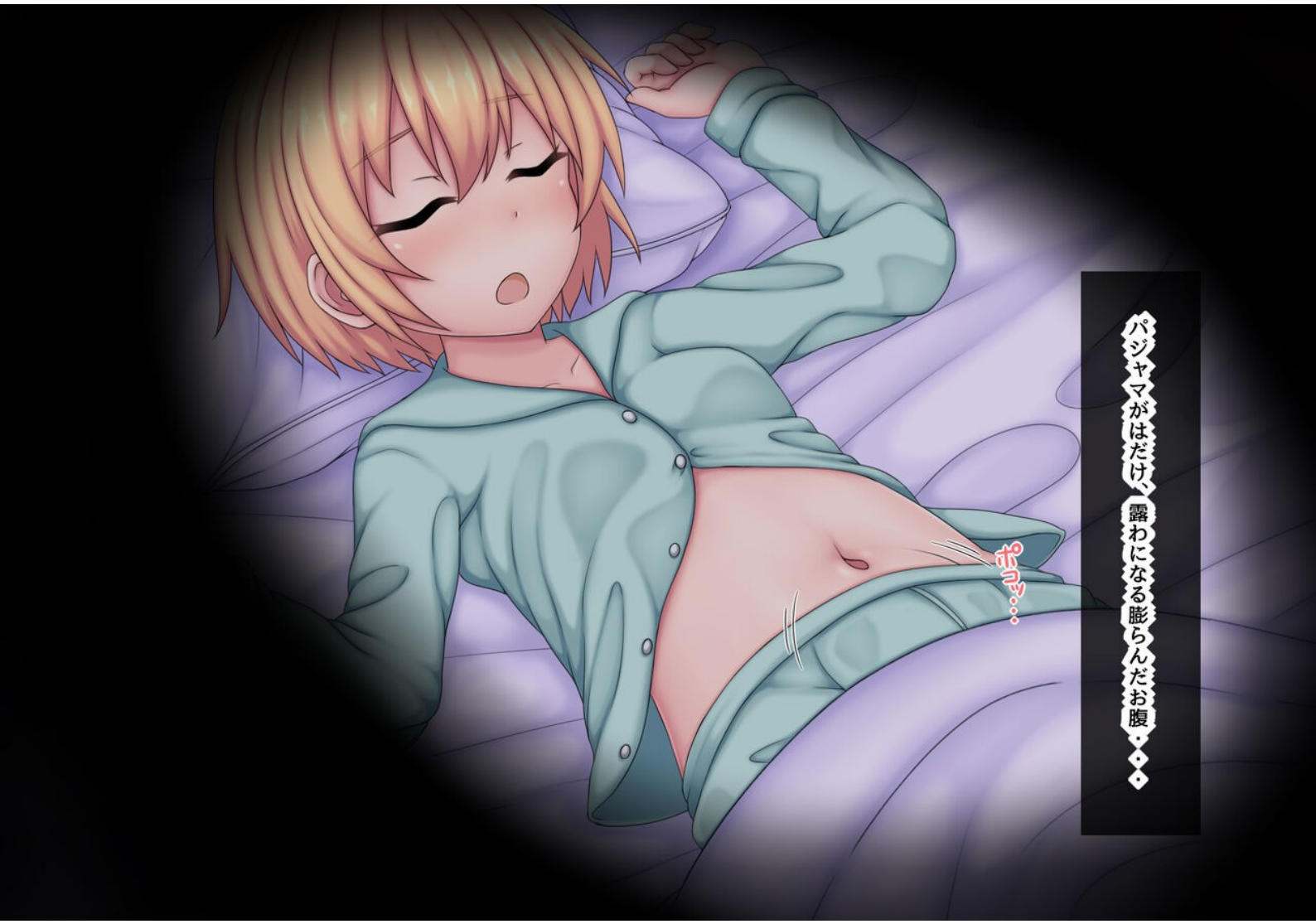
夕食を食べたはずなのに、やはりお腹の鳴りっぱなしだった・・・・・・
なんでこんなお腹空いてるの・・・
昼も夜もいっぱい食べたのに・・・
ぎゅるっ
じゅ～
ぎゅるるる～っ
じるる…
ぎゅるっ
じ～
ぎゅるる…

それにいつの間にか
お腹が変に盛り上がってて・・・
変な病気とかじゃ
なければいいなぁ・・・
ぎゅるっ
ごぅ～ぎゅるるる～っ
ごるる…
ぎゅるっ
ご～ぎゅるる…

彼女は固く目をつむり、無理やり寝ることにした・・・・
とりあえず今日は寝ないと！！
ぎゅるっ
ぎゅるっ
ぎゅるるる～っ…
ぐるる…
ぐ～ぎゅるる…

数時間後◆◆◆◆


無事熟睡した彼女・・・寝ている間にお腹の虫は鳴き止んでいた・・・
スゥ…
スゥ…
すー・・・
すー・・・


パジャマがはだけ、露わになる膨らんだお腹・・・
ポコッ・・・

鼓動は明らかに大きくなっていた・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
ドクン・・・

そして空は徐々に明るくなる・・・・・

朝・・・昨日とは違って寝不足は感じなかった・・・
ふぁー・・・よく寝た・・・

そういえばお腹・・鳴ってない・・

恐る恐る自分のお腹を触って確かめる・・・・・
ドキドキ
ドキドキ
・・・・・
ゴソ
ゴソ

お腹元に戻ってる！
よかったー！

お腹元に戻ってる！よかった！！
安心した彼女は、朝食を食べ、準備をすると
元気よく家を飛び出していった・・・

そしてお昼の時間◆◆◆

おーっす！
今日もぼっちしてるー？w
あ、今日はパンツだけだから
こっち見ちゃだめだよ？w
テンションたけーよ
それにお前のパンツ
なんて興味ねーよ

ふーん、そんな事言って見たいくせにーw正直になりなよーw
ww
ニヤニヤw
うるせーよ見たくないって言ってんだろ
処女のくせに調子に乗んな（ボソッ）

ふーん、そんな事言って見たいくせにーw正直になりなよーw
謎の空腹と下腹部の膨らみから開放されいつも以上に元気に捲し立てる・・・・
が、しかし・・・・・・・・・
うるせーよ昨日はお腹ぐーぐー鳴らしてた奴が調子に乗んな

その時だった、治ったはずのお腹から皮膚を引っ張られるような感覚が彼女を襲う・・・
ぐっ・・・！
ちょっと・・お腹がっ！
！
ごごっ…
ズキッ
ズキズキッ
ん？
またお腹空いてんのか？

彼女の下腹部が歪に膨らむ・・・・
複数の巨大な何かが彼女の中を蠢いていた・・・・・

そしてまたしても彼女は血管が浮き出ると共に意識を奪われる・・・
あ・・・・
ズ・・・・
だらん・・・・
ん・・・？

きひ・・・ぎひひ・・・・
ニヤ・・・
?
・・・ん？
大丈夫か？

らいじょーぶだよぉ・・・
くひひ・・
フー・・♥
フー・・♥
なんだよ・・・
気味悪いぞ・・？

はぁ・・　はぁ・・
美味しそう・・・
食べちゃいたい・・
はぁ
はぁ
お昼食べたんだろ？

彼女の身体がビクンと跳ねると、パンツが少し盛り上がる・・・・
あ・・・っ♥
ぬこっ♥

パンツの奥では
肛門が膨らんでいた・・・・・
パクッ

彼女の笑い声と共にパンツが股下へと勢いよく伸びる・・・・
あはっっ！
!?
ちょっ・・・
ほんとにどうしたんだよ？
じじっ・・

そしてパンツの側面から露わになった正体・・・
それは彼女の肛門から伸びる、大きなサイズのあの寄生虫だった・・・
あは・・
あはははは・・・
はーー♥
はー♥
おっきぃ・・・
あたしの子ぉ・・・・
ズリュンッ・・・
おい、どうしただって
聞いてんだろ！
そっち向いていいのか!?

寄生虫は彼女の肛門と繋がったまま左右にビチビチと動く・・・
くひひ・・・
ぐひひひひ・・・
すごい元気い・・・
いひひひ・・・
おい●●！いい加減にしろ!!
そっち見るからな!!
ビチッ
ビチッ

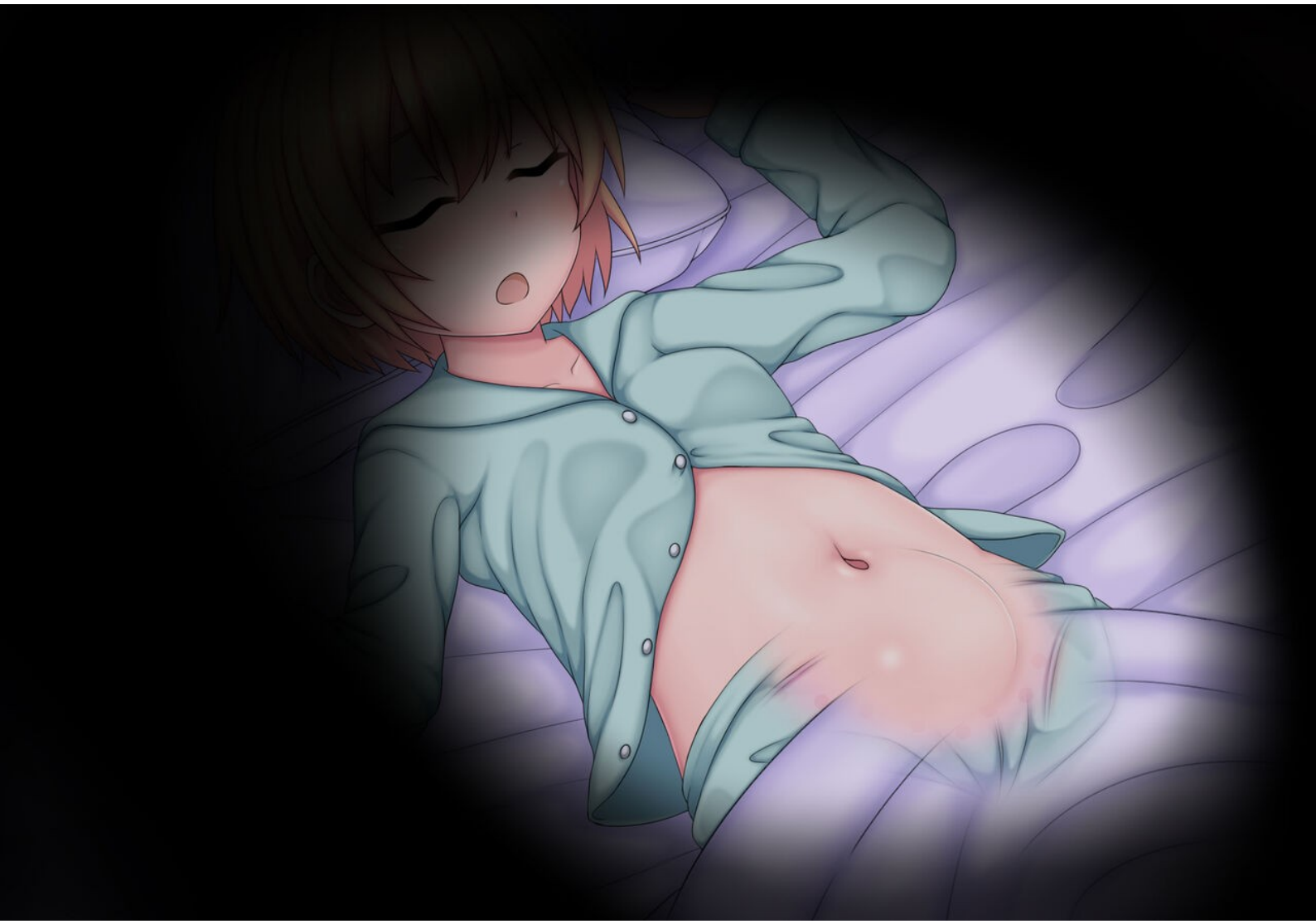
男の発した大きな声で、彼女の模様は一瞬で消え、自我が戻る・・・・・
えっ・・あっ・・ごめん・・・私・・・なんかおかしくなって・・
スッ・・・
いや、意味わかんない事言いまくってたぞ・・・まじでどうしたんだよ？

その時、彼女は肛門から何かがぶら下がっていることにようやく気付く・・・
いや、私も記憶が曖昧で・・・・
なんか一瞬意識が・・・・・・・・・・
ビチッ
ビチッ

ああっっ!!
なんだっ!?
ビキッ
ビキッ

ちょ・・だめっ!!
こっち見んな!!!
!
ササッ
あっごめんっ!
ニュル
ニュル

ちょっと私急用思い出して・・・
もう行くから、じゃあね！
プルプル
プルプル
ビキッ
ビキッ
お、おう・・・

彼女はあっという間にその場から走って行った・・・・

あの時男は、彼女の顔しか見ていなく、
股下の物体には気付いていなかった・・・・
それだけに状況が飲み込めず、
心配な気持ちを抱えたまま午後の教室へと向かった・・・・
?
なんだったんだ・・・・